

SMF
Press

ひろがる

あるってアート2012・PETIT...

川越ミュージアムロードと織物市場
アートクラフト手づくり市 in 織物市場

楽しくなくっちゃ、アートじゃない!!

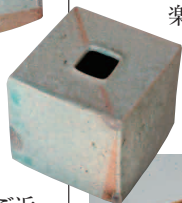
楽しいことは、みんなでやりたい。と言うわけで、アートフラッグのベースは埼玉県立工業高校の生徒さんたちと夏休みに作りました。10月8日は、川越市立美術館で小学生や中学生がその上に思い思いの絵を描きます。なかには、付添いのお母さんも参加したりします。商店街に掲げる作業は大人たちの仕事ですが、作業の傍らを観光客の皆さんが通って行きます。「え〜。小学生が描いたの〜？すごいね〜！」と言いながら。今年はどんなお声がかかるでしょうか。楽しみです。

アートフラッグをたどりながら歩くと、川越織物市場に着きます。軒下と

広場では、今年11月24日・25日アートクラフト手づくり市が開催され、26名のアーティストが参加します。美しい物、可愛い物、丹念な仕事ですね〜と言う物、美味しい物、アーティストやご近所さんとの楽しい会話。天然酵母パンをほおぼりながら、花模様のカフェラテを頂き、無垢材のイスに座って、こだわりのお茶づくりのお話を聞いたり、一点ものの手づくり時計に感心したり。細かい槌跡の小さな茶さじ（ステンレス）、クリスマスのテーブルに飾りたくなるキャンドルスタンド、先が極細で使いやすい箸、家庭の料

理も美しく見えそうな器たち。そう、アーティストの仕事は私たちの日常を楽しくするのです。

この楽しい試みが、ずっと広がっていきますように。(R.K.)



▲岩佐又兵衛《三十六歌仙額 斎宮女御》

川越市立美術館 開館10周年

2002年12月1日、市制80周年を迎えた市民の日に川越市立美術館は開館しました。「交流」をテーマに、川越ゆかりの美術家や作品を中心に国内外の優れた美術作品を紹介し、さまざまな芸術とのふれあいを楽しんでいただけたよう、多彩な事業を展開してきました。今年は開館10周年を迎え、美術館が担ってきた役割を検証するとともに、これから市民に愛される地域に根ざした芸術文化の発信地となるよう益々の発展をめざします。

開館10周年記念として秋の特別展は「小江戸川越江戸絵画 職人尽絵と

三十六歌仙額」(11/6〜12/16)を開催します。近世、江戸城北辺の守りとして重要な役割を担ってきた川越には多くの近世絵画の名品がもたらされました。その中の近世美術史上の傑作といわれる重要文化財、狩野吉信《職人尽絵》と岩佐又兵衛《三十六歌仙額》をこのたび一挙公開し、川越が育んできた近世絵画の魅力をお楽しみいただけます。

また、当館では「体感するアート」を大切にするために、開館以来「タッチアートコーナー」を設け、常に五感を用いてアートをお楽しみいただいています。それに伴

い、子どもから大人まで、どの世代でも美術を楽しめるよう各種ワークショップや講座、講演会などの普及事業にも力を入れており、子どもを対象に毎月「ジュニアアートスクエア」というワークショップを行い美術の芽を育み、一般の方には展覧会関連の講座などを充実させるだけでなく、コレクションを生かした作品鑑賞講座「え〜み〜る」も定期的に開催しています。

ぜひ一度、小江戸川越を散策しながら美術館で川越のアートにふれてみませんか？ (A.T.)

SAITAMA
連携美術館情報川口市立アート
ギャラリー・アトリア「川口の匠vol.2-美しきフォルム-」
10/7〜11/15

川口の匠たちを紹介する展覧会。第2回となる今回は、山田博(自転車製作/東叡社)、立野竜一(欧文カリグラファー)、飯村靖史(盆栽師)の仕事を紹介します。究極の線や形に込められた想い、美しさの極意に迫ります。

川越市立美術館

開館10周年・市制施行90周年記念特別展II

「タッチアート! 2
美術に触れるはじめての一步」
8/11〜9/30

いしばしめぐみ、瀬川亮、西尾路子の3人のアーティストによる、子どもから大人まで楽しめる展覧会。作品の一部は直に手で触れてお楽しみください。

埼玉県立近代美術館

「開館30周年記念展 日本の70年代

1968-1982」
9/15〜11/11

学生運動の激化や大阪万博の熱狂など、熱い時代を迎えていた1970年後半の日本。当館が開館した1982年までの15年間の時代の精神を、美術、デザイン、建築、写真、演劇、音楽、漫画などによって回顧します。

今回も前号に引き続き、埼玉県立近代美術館《みんなで選ぶMOMASコレクション ベスト10》をピックアップします。

開館30周年を記念して、7/14〜8/31に実施した収蔵品への人気投票を目下絶賛集計中。9/5時点では、1位：西野康造「風の中で」1144票、2位：深井隆「逃れゆく思念一時の曳航(えいこう)」997票、3位：宮島達男「Number of Time in Coin-Locker」978票だそうです。集計途中でもかなりの票数！モネやピカソなどの泰西名画が上位との大方の予想に反して、楽器や金色の翼、光など、見た目がきれいで親しみやすい現代のアートが人気だとか。参加者の多くは夏休みに訪れた子どもたちですが、大人票、職員票内ではどう結果が変わるか興味深いですね。ベスト10の詳細は10/20から始まる第3期の《MOMASコレクション》をお楽しみに。またこれに併せ、SMFメンバーの藤井香さん率いるダンスユニット「転々」が展示とコラボする《コレオグラフィの目 スペシャル》も企画中。票に表れた来館者の声と創作ダンスがどんな化学反应を起こすのか、大注目です!! (A.O.)

2012年10月20日

鴻巣アート散歩「画家と詩人・水と街道をたどる」

運転免許センターだけではない意外な鴻巣

鴻巣市は、関東平野の北部にあって、ほぼ平坦な土地。山や海など絵はきになるような風景がないかわり、大きな災害もなく暮らしやすいはある。そこそこに穏やかに過ごしていける土地は、アートが生まれるとか、傑出した人物がでるには適さないようにみえる。

そこに生まれたひとりの画家とひとりの詩人を手がかりのひとつとして、鴻巣を歩いてみたい。

画家・須田剋太(1906年鴻巣-1990年兵庫県西宮)は、アスファルトの物質感にひかれて国道の舗装を剥がしたり、



▲須田剋太自画像

東大寺にいそろうして絵を描きまったり、ひたすらアートに突き進んだ。

詩人・秋谷豊(1922年鴻巣-2008年さいたま)は、平野に育ちながら

高みに憧れ、ヒマラヤに登った。孤独な詩作にとどまらずに国際的な詩人会議を開催

し、言葉や文化を異にする詩人たちとの交流にも大きなエネルギーを費やした。

ふつうに画家や詩人として思い浮かべる姿を大きく越え破るような、これほど並みはずれた人が、ゆったりと穏やかな土地からどうして生まれたらう？

そうしたことに回答がすぐあるわけではないが、かすかに念頭において、荒川と中山道に貫かれたまちの、ちょっとかわった風景を見てまわる。

鴻巣市産業観光館ひなの里には、2011年に国の重要無形民俗文化財に指定された「赤物」が展示されている。「赤物」は厄除けの赤い色に塗った玩具だが、桐箆筥(きりだんす)の産地だった鴻巣では、桐を加工したあとにでるおが



▲秋谷豊 ラーメン文字

くずを固めて使ったことに特徴がある。

秋谷豊の墓がある光徳寺は、旧中山道からわずかに入ったところにある。すぐそばに市の水道の水源があり、うっそうとした木々に囲まれている。近くには良質で大量の水があつて初めて成り立つ造り酒屋もあった。

宝持寺は、渡辺綱が創建したと伝わる寺。渡辺綱が妖怪「茨木童子」を打ち負かす場面を描いた歌川国芳の浮世絵を、立体木工で再現した大きな作品が本堂にかかっている。

このあたりを武蔵水路が通っている。利根川から荒川に水を引いて、埼玉と東京の都市用水につか



▲赤物

われている。利根川からの取水地点は、広大な水面でのウインドサーフィンの様子をしばしばテレビなどで見かける。その反対側、荒川への合流地点の景色は訪れる人もないが、珍しい風景が作られている。(開通して半世紀近く経ち、今は改修工事が行われている。)

須田剋太の生地に近い吹上駅前の公民館では、毎年秋に須田剋太の作品展が開催されている。今年は司馬遼太郎の『街道をゆく』に描いた挿絵が展示されている。

鴻巣駅から北鴻巣、吹上駅へとたどりながら、武蔵野の風景を見ていきたい。(Y.W.)



改修工事中の武蔵水路

まち×匠×アート vol.2

川口の魅力を体験しよう!!



▲昨年の「銭湯のある街歩き」の様子

ものづくりのまち・川口には、風土から生まれたさまざまな文化があります。昨年にひきつづき、第二弾となる今回も川口のさまざまなスポットで展示・イベントを開催します。

その柱となるのが10月7日～11月15日、川口市立アートギャラリー・アトリアで開催する秋の企画展「川口の匠vol.2 美しきフォルム」です。昨年度からはじまったこのシリーズでは川口の優れた職人たちに着目し、今年は「美しいフォルム」をつくり出す3人の匠たちを紹介します。

また、さらに川口の魅力を身近に感じてもらうためにワークショップやまち歩き、鑑賞講座を多数開催します。10月7日には画家の東田理佐さんを講師に、興禅院やふるさとの森(川口市安行領家)を歩き自然の力を感じながら、樹木を墨でフロッタージュするワークショップ「ドローイング散歩」。13日には匠の一人である盆栽師の飯村靖史さんとご子息の誠史さんを講師に迎え、躍動的な盆栽が並ぶ盆栽園「喜楽園」(川口市赤山)にてワークショップ「ミニ盆栽をつくろう」。21日にはさいたま市大宮盆栽美術館の学芸員の方を講師に迎え、川口市立アートギャラリー・アトリア(川口市並木元町)のスタジオにて、アートの視点で盆栽の魅力を捉える鑑賞講座「アート作品にみる盆栽

の魅力」。11月3日、17日には、庶民文化研究家の町田忍さんを講師にお招きし、川口駅周辺(3日)、西川口・蕨駅周辺(17日)にて、昭和の赴きがある商店街や路地、工場、銭湯などを歩いてめぐり、最後には銭湯に入浴することもできるまち歩き「銭湯のある街歩き」。など盛りだくさんで川口の魅力をご紹介します。

川口を楽しむアートイベントで、新しいまちの魅力を発見してみてください。(K.K.)



▲興禅院

「ひとのかたち カラフル人形をつくろう」ワークショップ報告

前号の記事でご紹介した「アートなパレード」。去る8月25・26日に実施され、15組の親子を含む計41人が参加しました。

講師の秋元珠江さんの指導のもと、一枚の布からハサミを使わず「ひとのかたち」ができていく不思議さ。そこに子どもの自由な発想や大人の知恵が加わって、個性豊かな人形たちが生まれていきました。

まちでは「アートでつなぐ人とまち・アートフェスティバルうらわ2012」が賑やかに行われていました。参加アーティストやお店の人と交流しながらパレードし、作品を連れ歩く皆が誇らしげです。親子や年齢などの垣根を越えて仲良くなった人もあり、到着した展示場で手をつなぎ合う作品を見つめる参加者の気持ちもつながり合っている様子でした。(A.O.)



編集者のつぶやき…

五感で、いやいやそれ以上で楽しむアートですよ。(R.K.)

10月20,21日は川越祭り、祭りとお酒を楽しんでください!(A.T.)

[S]下半期[M]目玉はアート[F]ファクトリー。11/4はぜひMOMASへ!(A.O.)

晴れるといいな(水に負けないように)!(Y.W.)

秋が一番好きな季節です。匂いや光が、細胞に沁み渡るような感じがします。(K.K.)